



27:13 さて、穏やかな南風が吹いて来たので、人々は思いどおりになったと考え、錨を上げて、クレタの海岸に沿って航行した。

27:14 ところが、間もなくユーラクロンという暴風が陸から吹き降ろして来た。

27:15 船はそれに巻き込まれて、風に逆らって進むことができず、私たちは流されるままとなった。

27:16 しかし、カウダと呼ばれる小島の陰に入ったので、どうにかしっかりと小舟を引き寄せることができた。

27:17 そして小舟を船に引き上げ、船を補強するために綱で船体を巻いた。また、シルティスの浅瀬に乗り上げるのを恐れて、船具を降ろし、流されるに任せた。

27:18 私たちは暴風に激しく翻弄されていたので、翌日、人々は積荷を捨て始め、

27:19 三日目には、自分たちの手で船具を投げ捨てた。

27:20 太陽も星も見えない日が何日も続き、暴風が激しく吹き荒れたので、私たちが助かる望みも今や完全に絶たれようとしていた。

27:21 長い間、だれも食べていなかったが、そのときパウロは彼らの中に立って言った。

「皆さん。あなたがたが私の言うことを聞き入れて、クレタから船出しないでしたら、こんな危害や損失を被らなくてすんだのです。

27:22 しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う人は一人もありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私が仕えている神の御使いが私のそばに立って、

27:24 こう言ったのです。『恐れることはありません、パウロよ。あなたは必ずカエサルの前に立ちます。見なさい。神は同船している人たちを、みなあなたに与えておられます。』

27:25 ですから、皆さん、元気を出しなさい。私は神を信じています。私に語られたことは、そのとおりになるのです。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。』

ユーロクランというのは東北東の風で、激しいものでした。船具まであきらめ、また航海に頼りの太陽や星までもが見えないのなら、全くなすすべがありません。

船乗り達でさえ食事できないほどに恐れていましたし、パウロも神様から「恐れることはありません」とのことばが必要なほどに、実際は恐れていたようです。

それは神様のご計画の中にあることで、1つには百人隊長がパウロを尊敬するため（後に彼はパウロを助けます）、またひとつにはマルタ島の人々に福音が伝わるためであったと思われます。

このようにパウロは数々の困難に会いながらも、神様がそこから助けてくださるという経験を何度もしているので、彼のローマ行き確信は強くなっていったのです。

ユーロクランのような激しい出来事で、神様の計画までもが挫折してしまうように思われることもあるかも知れませんが、主のご計画の確かさと、守りへの信頼、そしてご計画を勧める主の強い御心を疑わずに進みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

